

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称	パラベット
品番	43200、43201
供給者の会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷 2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3815-4832
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類	
物理化学的危険性	非該当
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 特定標的臓器毒性(単回ばく露)
	区分 2B 区分 3(気道刺激性)

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「区分に該当しない」、又は「分類できない」に該当する。なお、これらに該当する場合は後述の 11 項に記載した。

GHS ラベル要

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	眼刺激。 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

安全対策	取り扱い後は手をよく洗うこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
応急処置	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

	吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。
保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
廃棄	内容物、容器を地方、国の規則に従って廃棄すること。
他の危険有害性	情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別；混合

化学名又は一般名	濃度又は 濃度範囲	化学式	官報公示整理番号 (化審法) (安衛法)		CAS 番号
パラフィンワックス	95%	C_nH_{2n+2}	(8)-414	既存	8002-74-2
添加剤	5%	非公開	非公開	非公開	非公開
分類に寄与する不純物及び安定化添加物		情報なし			

4. 応急処置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

[溶解ワックスの場合]

皮膚に付着した部分を水に浸し冷やす（氷水及び氷パックをあてがうのも有効である）。しかし、身体
の 10 %以上を火傷した場合はショックを与えることがある為、前述の冷却処置を行わず、速やかに医
師の診断を受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後
も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

眼、鼻、喉を刺激する。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、適切な保護具を着用して行う。

医師に対する特別な注意事項

医師の手当てを受ける場合は、本 SDS を提示する等、本製品に関する情報を医師に提供する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

火災時の特有の危険有害性

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

激しく加熱すると燃焼する。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣（耐熱性）を着用する。

消火作業は可能な限り風上から行う。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

適切な保護具を着用する。

こぼれた場所はすべりやすいため注意する。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

掃き集めて、容器に回収する。

乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。

二次災害の防止策

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

7. 取扱い及び保管上の注意

※3,000 kg 以上の量を貯蔵又は取り扱う場合には、市町村条例に定められた基準を満足すること。

取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱い注意事項

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避ける。

		屋外又は換気の良い場所でだけ使用する。
		眼に入らないようにする。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	取扱い後は口、皮膚、眼をよく洗うこと。
保管	安全な保管条件	酸化剤から離して保管する。
		固体で保管する場合、直射日光を避け、冷暗所で保管する。
		熔融状態で貯蔵する場合は高温過熱にならないように注意する。
	安全な容器包装材料	熔融状態で貯蔵するタンク、容器の材質はステンレス鋼が適している。
		銅および銅合金は品質劣化の原因となる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定	
許容濃度	日本産衛学会 ACGIH	未設定 TLV-TWA 2 mg/m ³ ヒュームとして TWA (8 時間加重平均) : パラフィン ワックス ヒュームの許容濃度 2 mg/m ³ (ヒュームは蒸気が凝縮してできた微粒子物質)
設備対策	排気、換気設備を設ける。 洗眼設備を設ける。 作業場ないし貯蔵場には安全シャワーを設置する。 高熱取扱いで、工程で粉じん、ミスト、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。	
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体保護具	換気が不十分な場合、適切な呼吸器保護具を着用する。 保護手袋を着用する。 推奨材質：非浸透性もしくは耐化学品ゴム 保護眼鏡、顔面保護具を着用する。 保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	
物理状態	ろう状固体(ペレット状)
色	白色
臭い	わずかな臭気あり
融点/凝固点	58℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし

可燃性	可燃性固体
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当しない
引火点	230℃
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	該当しない
動粘性率	該当しない
溶解度	水に対する溶解度： 不溶
n-オクタール/水分配係数(log 値)	log Pow > 6
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	0.77 g/cm ³ , at 80 °C
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	データなし
その他データ	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	自己反応性なし。
化学的安定性	通常の下で安定。
危険有害反応可能性	酸化剤、強酸類と反応する。自己反応性なし。
避けるべき条件	長時間加熱、火災、発火源
混触危険物質	酸化剤、強酸類
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	
ラット LD50 > 5000 mg/kg	
急性毒性(経皮)	
ウサギ LD50 > 3600 mg/kg	
急性毒性(吸入：気体)	
データなし	
急性毒性(吸入：蒸気)	
データなし	
急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	
データなし	
皮膚腐食性/刺激性	
ウサギ試験で not irritating と slightly irritating	
ヒト皮膚刺激性試験の結果では not irritating	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	

ウサギで slightly irritant 及び mild irritant 区分 2B

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

in vivo 試験のデータなし

Ames 試験(in vitro 変異原性試験)で陰性

発がん性

IARC 該当せず

ACGIH 該当せず

生殖毒性

データなし

生殖毒性・授乳影響

データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

気道刺激性 区分 3

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データ不足

誤えん有害性

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

水生毒性データなし

水生環境有害性 長期(慢性)

水生毒性データなし

残留性・分解性

微生物による分解性あり。

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

モントリオール議定書の付属書には列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則	国連番号 品名(国連輸送名) 国連分類(輸送における危険有害性クラス) 副次危険 容器等級 海洋汚染物質 MARPOL73/78 附属書Ⅱ及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 その他の安全対策	該当しない - - - - - 有害液体物質 (Y 類) パラフィンワックス -
国内規制	海上規制情報 航空規制情報 陸上規制情報	船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 消防法の規定に従う。
特別な安全上の対策		3,000 kg を超えて移送する場合にはイエローカード^①を携帯すること。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの ないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
その他(一般的)注意		-
緊急時応急措置指針番号		-

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき有害物 (法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9、固形パラフィン)
---------	---

	名称等を通知すべき有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9、固形パラフィン)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	指定可燃物 可燃性固体類
水質汚濁防止法	日当たり平均的排水量 50 m ³ 以上の特定事業場に適用される排水基準生活環境項目 ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量): 5 mg/L
下水道法	鉱油類排出規制 (5 mg/L 許容濃度)
海洋汚染防止法	個品運送の場合: 海洋汚染物質 (P、PP 物質) に非該当。
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物規制 (拡散、流出の禁止)

16. その他の情報

参考文献

- 1) ICSC(J) (2003) : 国際化学物質安全性カード パラフィンワックス ICSC 番号 1457
- 2) 厚生労働省 : GHS 対応 モデル SDS 固形パラフィン
- 3) IUCLID (2000)
- 4) RTECS (2008)
- 5) 農薬安全情報 (1992)
- 6) JECFA (1993)
- 7) JECFA (2003)
- 8) EHC20 (1982)
- 9) PATTY 5th (2001)
- 10) 2019 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
- 11) 2019 TLVs and BEIs. (ACGIH)
- 12) NITE-化学物質管理分野 : GHS 分類結果 ID21B3029 固形パラフィン (平成 21 年度)
- 13) P.Shubik et al. : Toxicol Appl, Pharmacol., Suppl, 4, 62 (1962)
- 14) A.O.Hanstveit : TNO Report, Netherland orga, for Appl, Resear (1990)
- 15) Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (6th ed., 2015), UN
- 16) Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN
- 17) Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECN06182012)
- 18) 2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
- 19) JIS Z 7252 (2019)

20) JIS Z 7253 (2019)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。